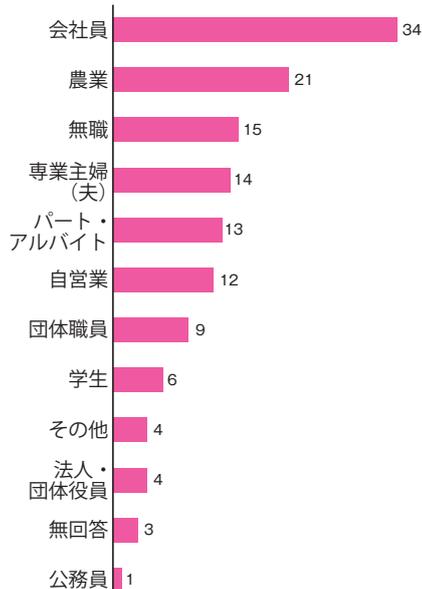


町民アンケート調査を実施 皆さんの声をもとに 議会改革を進めていきます!

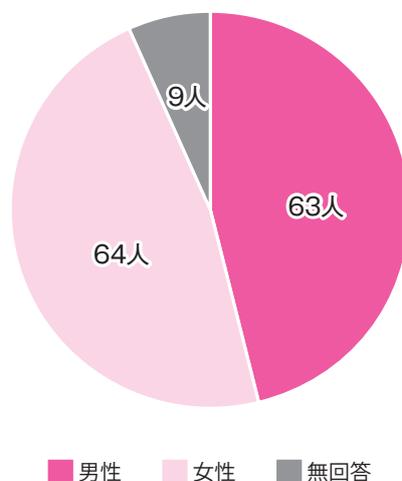
令和6年10月20日(日) 矢巾町秋まつり会場にて町民アンケートを実施しましたのでアンケートの回答結果を一部抜粋してお知らせします。

回答数について

《職業別》



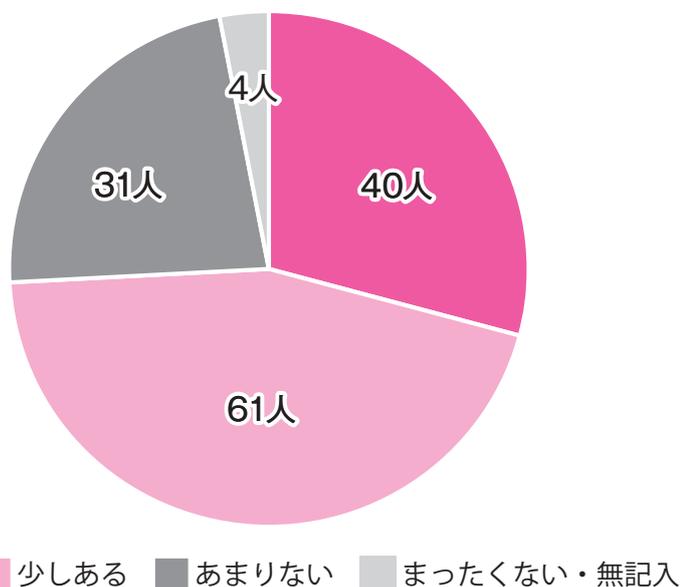
《性別》



合計136人から回答をいただきました。男女比はほぼ同数で、年代別では50代以上の方の回答が、地域別では煙山地区の方の回答が多く、本町の人口分布とほぼ同じです。

職業別割合は、会社員が多く、次に農業、専業主婦の順となっています。40代以下のアプローチとしては、令和6年12月に高校生・大学生を対象としたワークショップを実施しました。

町議会に関心はありますか

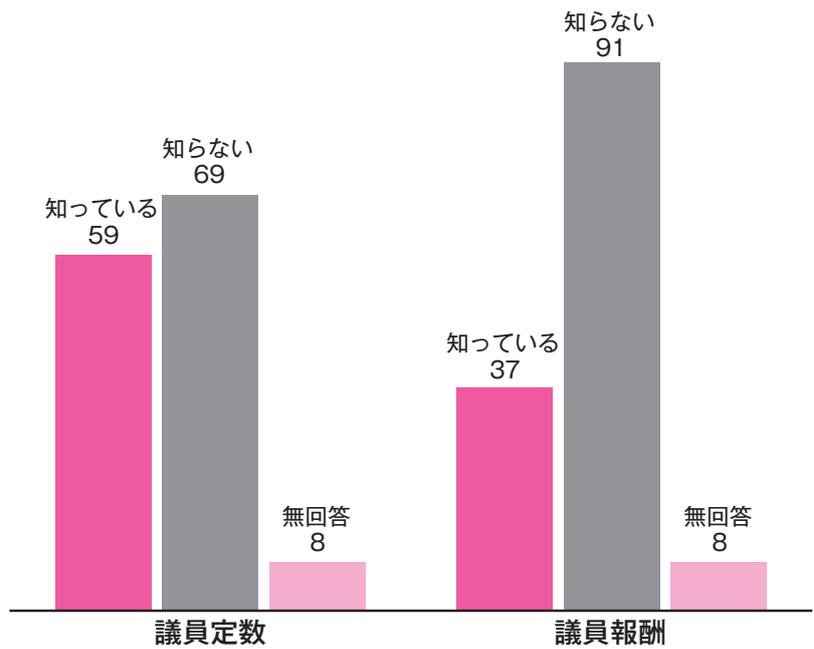


町議会への関心が「ある」と「少しある」を含めると、半数以上の関心があると分かりました。年代別では40代から70代の方から「ある」と回答をいただきました。

さらに関心を持っていただけるよう取り組んでいきます。



矢巾町議会の議員定数や議員報酬額を知っていますか



議員定数や議員報酬の認知度は低く、大半の方が「知らない」と回答されました。今後、議会のあり方を検討していく中で、議員定数や議員報酬額の改定が必要となる場合もあるため、町民の皆さんに対する周知活動を積極的に行っていくことが重要です。

*定数 18人
*報酬 (月額)
議員 24万円
副議長 25万8千円
議長 32万3千円

町村議会議員のなり手不足の理由は何だと思いますか



なり手不足の理由として、「議会や政治への無関心」との回答が半数を超え、また、議員がどのような仕事しているのか想像がつかない方も多いと感じます。議員職の魅力アップや、議員になってからの活動がわかるような情報発信に力を入れ

ていく必要があることが分かりました。



皆様からのご意見(一部抜粋)

- ・より住みやすい矢巾町となるように、住民の意見に耳を傾けていただけると嬉しいです。
- ・生活に身近な問題について取り組んでいただきたい。
- ・議員活動を頑張っていることをもっと町民に知らせる機会を増やすべき。
- ・もし自分が議員になったら、今までの生活がどのように変わるのかわからないので(議員職は)不安。
- ・固い言葉を使わない懇談会などがあつたらよいと思います。



たくさんのご回答をいただき、大変ありがとうございました。ひとつひとつのご意見を、今後の活動に活かしていきます。

特別委員会委員長
谷上知子

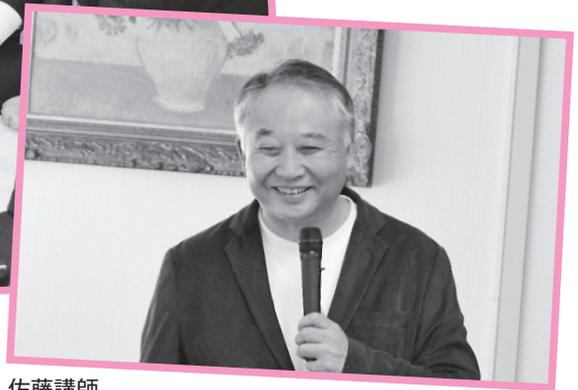
町政調査会研修会を開催

町民の信頼と付託に応えるための議会力アップと「多様な
り手の創出」のため、報酬・定数、他要素を含め環境整備を今
後どのように行っていくべきか、その提言をいただくとともに、
住民自治としての議会・議員の姿を考察するために開催しまし
た。

対話する議会・議員を目指して 議員のレベルアップ!



SOUNDカードを活用して



佐藤講師

講師紹介

青森大学社会学部教授／早稲
田大学マニフェスト研究所招
聘研究員

佐藤 淳氏

演題

「対話する議会・議員を目指
して」～SOUNDカードの
議会での活用方法～
《第1部》矢巾町の議会に関
する問題点
《第2部》SOUNDカード
を活用した討議の実践

所感

第1部は「矢巾町の議会に
関する問題点」という、どっ
きりするタイトルで始まり、
予算決算常任委員会において
の意見は次年度予算に反映さ
れているか、付帯意見をもつ
と集約する必要があるのでは
ないか、さらに、議員間討議
は「意見表明だけの討議もど
き」になっていないかなどの
お話をいただきました。

第2部では、いよいよSO
UNDカードを活用した討議
の実践を行い「議員のなり手

不足問題」についてグルー
プに分かれ、自分が話したい
と思う「問い」のカードを選
び答えを述べ合いました。私
のグループでは、若い議員後
継者の発掘や家族の問題で議
員活動に支障が出ていること
などの意見があり、気持ちを
共有し「常々思っていること
が言えた」と感じました。ま
た、チームワークにおける新
しい視座や視点を心得て、問
題解決力に結びつけていき
たいと思いました。

このように、SOUND
カードは「言える化ツール」
となり、カードを使えば場
の活性が促され、どんな話
でもメンバーでも「対話」が
可能になります。

町民の皆様とのつなぐ会
でもSOUNDカードを使っ
ていきたいと思えます。ど
なたでも自由に率直な発言
ができるツールがあります
ので、苦手な方も安心して
ご参加ください。

矢巾町政調査会副会長

小笠原 佳子

私も



やはラヂ！パーソナリティー
みなみはば だいち
南 幅 大地 さん
(南矢幅5区)

——本町の良いところや改善してほしいことなど、なにかに思うことはありますか。
私が小さい頃は近所付き合いが深く、学年関係なく子どもたちが一緒に遊び、親子ぐるみ地域ぐるみで関わっている温かさがあった。
今は時代の流れもあり、そういういった関わり合いが希薄で寂しいなと思います。

「特に若者に議会を傍聴してほしい」と話されていたのがきっかけ。
現在、やはラヂ！のパーソナリティーを務めており「ぜひ傍聴に行きましょう」と呼びかける立場でもあるので、来てみようと思いました。

——実際に傍聴して、興味関心のある項目はありましたか。
ひとつは、吉田議員の質問の中で特産品の話題がありました。もっと情熱をかけて「矢中町にはこれだ」というものを打ち出してほしい。それは若者たちが町を自慢する材料、故郷離れを食い止める材料になると思う。
また、高橋敬太議員の質問の中で未来への投資という項目がありました。私は普段から、年代によって思い描くことの差、ギャップが大きいと感じることがあります。

——町や議会、議員に望むことはありますか。
さきほど話した「年代ごとのギャップ」を埋めるため、年代も職業も異なる多くの町民のほか、町職員・町長なども参加し、気軽に意見交換ができる場が欲しい。お茶やお酒を飲みながら、気軽に話せる関係性を築き、町に関する多くの意見を吸い上げられる場があったら良い。
あとは行政には、よりスピーディーな対応を望みます。

——最後に一言お願いします。
傍聴は、煩わしい手続きが一切ない。町と議会が一緒になって矢巾を良くしていこうとする姿を、ぜひ多くの若者に見てほしいです。

学生が描く まちの未来

学生の想いを聴きたい

令和6年12月19日に「高校生・大学生と議員をつなぐ会」をやはぱーくで開催しました。

計9人の学生が集まり、町の未来や若者が抱く夢などそれぞれの想いを、ワークショップ形式で意見を出し合い、最後に発表も行いました。

学生からの声（一部抜粋）

- ・常に成長し続ける町であってほしい。
- ・矢巾の狭さを利点に人とのつながりを大切にする町であってほしい。
- ・自然と発展の調和がとれた町になればいいな。
- ・イベントを活性化させて、町全体が発展してほしい。
- ・若者をもっと楽しめるものが増えたら嬉しい。
- ・お金の面で壁があると思うが、未来への投資だと思っ
- て頑張っしてほしい。
- ・面白くて優しい町に。



学生の想いを聴く場、今後も